



令和6年5月10日

研修だより 12号

知識・技能の習得のために③

小笠原康晃

前号の続きです。

知識・技能の習得のために取り組んでいることを紹介してきました。

私も普段授業で取り組んでいることがあります。

国語の時間であれば、漢字学習と音読です。

漢字の学習は、1回3文字5分を意識して指導をしています。

ドリルパークなどを使い、短い時間で繰り返し学習をしています。

子どもたちの目にたくさん漢字が触れるようにしています。

音読にも、私は力を入れています。

音読集を活用して、子どもたちの語彙を増やすようにしています。

教科書の文章の音読を確実に行っていきます。

「その学年の教科書に出ている文章をすらすら読めることが、その学年の力が身に付いている基準になる」と、以前読んだ本に書いてあったからです。

すらすらと読むためには、宿題としての本読むに加え、授業の中でも音読をするようにしています。

様々な先生方の取組を紹介しましたが、一人一人の知識・技能の習得について、もっとも詳しいのは前嶋先生、重松先生だと私は考えています。

特別支援学級では、子どもたちに一人一人に合った学習を実施しています。

一斉指導ではなく、常に個別指導です。

一人一人の興味関心や得意・苦手を把握した上で、学習を進めています。

なかなか難しいかもしれませんが、全校で参観する機会や指導・支援について学ぶ機会を設けたいと思います。

新しく取り組むよりも、今取り組んでいることの質を上げる。

無理なく続けていくことが大切だと感じました。